

# ターム留学経験者に聞きました!



東光健さん

留学した学校はヒルクレストクリスチャンカレッジといって、オーストラリアのゴールドコーストにあります。ぼくは意見を言うのがあまり得意ではなく、周りに合わせてしまうところが自分でもちょっといやだな、というふうに思っていました。そういう部分をあえて荒療治で鍛えれば少しは改善できるのでは、と

挑戦してみました。ホストファミリーは高齢の夫妻でしたが、10年くらい留学生を受け入れている家庭だったので、色々サポートしてくれました。最初の1週間は「日本人は珍しいからだれか話しかけてくるだろう」と楽観的に考えていたのですが、一向に友だちができる気配がなかったので、勇気を振り絞ってアクティビティーに参加したりして友だちを作りました。

オーストラリアはアメリカの英語とは違って発音などが独特で大変でしたが、3週間くらい過ごしたころに、急に単語で聞き取れる部分が出てきて、それをつなぎ合わせて、ということから、とくにホストファミリーとはある程度話せるようになったと感じられました。3カ月外国で過ごすなかで、客観的に物事を見て、自分なりに考えて行動することができるようになりました。メンタル面も強くなったと思います。末田くんが言ったように、リスクを恐れないで、チャレンジしてみてもいいですね。



写真左から東光さん、紫藤先生、末田さん

ぼくはアメリカのサンディエゴにあるロックアカデミーという学校に留学しました。昔から留学をしたい、異文化体験をしたいという思いが強かったのが動機です。自分が無宗教だったので、キリスト教の学校を体験してみたい、そして小規模校でコミュニケーションもたくさん取れるかなということが決め手です。

実際には、聖書の時間は独特の表現でなにを言っているのかわからないことも多かったですが、それがきっかけで友だちの輪が広がったりしたのはよかったですね。ホームステイはお母さんと8歳と6歳の子ども2人の家庭で、家ではその2人と遊んでばかりいました(笑)。

授業はやっぱり日本と全然違って、生徒が能動的だと感じました。自分たちの意見を出すこともそうだし、プレゼンテーションをこまめにします。生徒の発言から授業の方向が変わっていくこともあったりして、すごいなあと感じました。英語については最初はまったく聞き取れなくて、でも、段々と聞き取れるようになってきて、リスニングはできるようになったなと校内試験を通じて感じています。

留学したことで、行く前よりも色々なことを考えるようになったし、ニュースも興味を持って見るようになりました。チャンスがあるなら中高の間に留学に行くべきだとみなさんに伝えたいです。

留学したことで、行く前よりも色々なことを考えるようになったし、ニュースも興味を持って見るようになりました。チャンスがあるなら中高の間に留学に行くべきだとみなさんに伝えたいです。



末田慧心さん

## 城北中学校

- ◆住所 東京都板橋区東新町2-28-1
- ◆アクセス 東武東上線「上板橋駅」徒歩10分、地下鉄有楽町線・副都心線「小竹向原駅」徒歩20分
- ◆TEL 03-3956-3157(代)
- ◆URL <https://www.johoku.ac.jp/>

### 学校説明会(要予約)

7月12日(金)18:00~※  
10月12日(土)13:30~  
2月22日(土)13:30~☆

### 施設見学会(要予約)

8月3日(土)10:00~  
8月10日(土)10:00~  
12月14日(土)13:30~  
12月15日(日)10:00~

### クラブ公開(要予約)

9月14日(土) 11月16日(土)  
両日とも午後開催

### 文化祭受験相談コーナー

9月28日(土) 9月29日(日)  
両日とも10:00~

### 体験授業(要予約)

10月19日(土)午後開催☆

### 入試説明会(要予約)

11月23日(土祝)10:00~  
11月30日(土) 13:30~  
両日とも同じ内容です

※校舎案内はありません  
☆4・5年生対象

した2人の生徒さんに語ってもらいましたが、それを読んでもわかるように、語学のみならず、経験しなければ絶対にわからない知見を得たり、視野を大きく広げることができなのが、城北中学校のターム留学です。



写真左：現地で友人たちと(東光さん) 右：帰国後の事後研修で発表をする末田さん

## 明日に伸びる! この1校

# 城北中学校 東京 男子校

## 語学力が伸び、人としても成長できる「ターム留学」で濃密な3カ月を送ろう!

1941年(昭和16年)創立の城北中学校。近年はグローバル教育に注力し、2018年度(平成30年度)からは3カ月の「ターム留学」をスタートさせました。

### 留学校選択や現地でのサポート体制も充実

城北中学校では、5年ほど前から校内の「国際教育委員会」を中心として、本格的なグローバル人材育成のための教育に着手してきました。

そのなかで、40年以上にわたって行われてきた15日間のオーストラリア語学研修をもとに、さらに踏み込んだ「真の語学研修たるものにしていく」(国際教育委員会委員長の紫藤潤一先生)と国際教育委員会で議論を重ね、作り上げられたのが、3カ月の「ターム留学」でした。

「1年留学とターム留学の2つの案が出ましたが、1年留学であれば留学国の単位を取る必要があります、それよりも、英語を学ぶことに特化することから始めようということになりました」と紫藤先生はその経緯について説明されます。そして2018年度に始まっ

たターム留学では、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの公・私立校、共学校・男子校の約30校から学校を選択することになりました。

このターム留学のポイントは、ある程度まで生徒の希望に応じて学校を選ぶことができるということです。「サポート体制も含めて、業者に丸投げするのではなく、本校がしっかりとってプログラムを作っているため、生徒・保護者が安心できるものになっていると言えます」と紫藤先生は胸を張ります。

第1回となる今回のターム留学が終わり、帰ってきた生徒たちは大きな変化を見せているそうです。「まず、英語の部分では、英語科の先生から発音や授業を受ける態度が変わったという報告を受けています。そして、これは男子の成長の証だと思うのですが、いい意味で『生意気になったな』と感じました。それぞれに色々なことがあったと思います。それを乗り越えたことで、子どもが大人になったという感覚です」と紫藤先生は、生徒たちの成長に目を細めます。

左ページでは今回の留学を経験